

(4)様式4 助成事業実施報告書

2024年4月1日

助成事業実施報告書

団体名 焼津災害支援ネットワーク
代表者氏名 伊藤弘泰

1. 助成プロジェクト名

市民トリアージ育成事業

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など180文字程度まで）

災害発生時のボランティア活動を通して、地域社会に貢献することを目的にした組織で会員数は5名です。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）

大規模災害発生の可能性が高まっている現在、私たちには自然災害に対する防災意識の向上と具体的な防災対策が求められています。その方法の一つとして、会員の知見を高めると共に、市民によるトリアージの必要性を高めることが課題であると考えました。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）

- ・会員の知見を高める活動
DIG災害図上訓練 一人イメージTEN出前講座 地域防災指導員中級養成講座
段ボールトイレ製作講習会 感染防止エプロン作成講座 静岡県VC図上訓練
- ・地域社会への還元活動
市民トリアージ研修会（応急手当の具体も含む）
地域防災訓練

5. プロジェクトで得られ「結果」（OUTPUT 実施回数や参加者数など）

「成果」（OUTCOME 事業によって生まれた直接的な変化） 「「社会的変化」（IMPACT 事業が社会に与えた影響）などの『効果』

講習会や研修会等には延べ20名が参加し、防災に関わる知見を高めることができました。また、地域住民56名に講演や講習を行い、防災意識を高めたと考えています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など

安田清先生を講師に「市民トリアージ」研修会を実施しましたが、受講者は災害の被害想定値に対する対応値の乖離を実感し、市民によるトリアージの必要性を痛感したようです。防災意識の向上や発災後の対応を他人任せにしないという共助の認識を高めるためには、今後も引き続き研修会や訓練・講習の実施が必須になります。さらに共助の意識を高めるためには、成人だけでなく中高生への研修も必要だと考えます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

災害時にあなたができるることは？

市民トリアージを学ぼう!!

◎日時 令和5年10月29日（日）午前9時30分～正午

◎場所 焼津市立豊田公民館ホール

◎講師 静岡県災害対策本部DMA T調整本部長（整形外科医）安田 清 先生

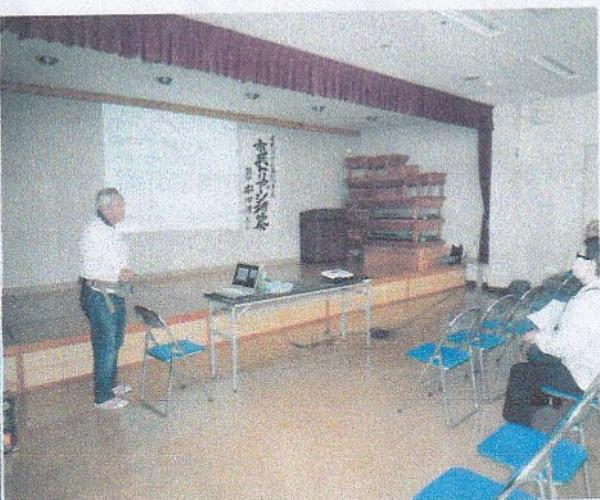
◎主催 焼津災害支援ネットワーク（代表 伊藤 弘泰）

※当日の参加者 46名

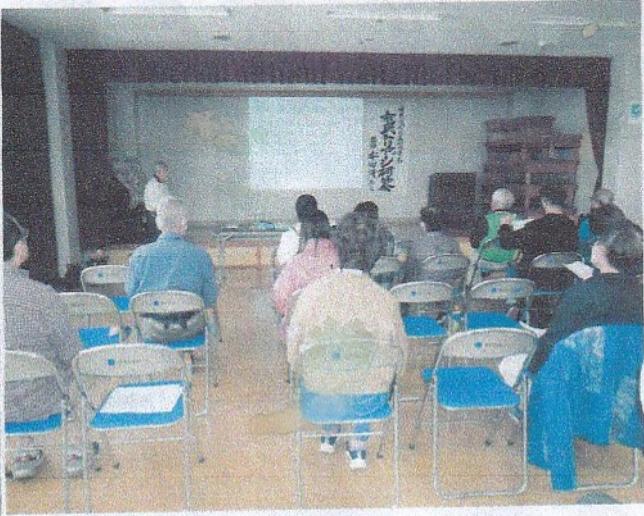
《主催者あいさつ》



《パワーポイントによるレクチャー》



「被災しても動ける市民はたくさんいる。役所、消防、医療だけできることではない。市民にもできることがある。市民にしかできないことがある。命が助かってたら助ける側にまわってほしい」と訴える。

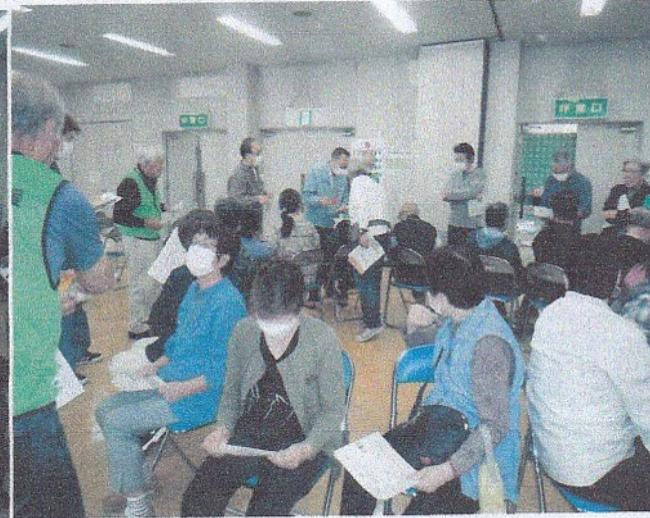


《トリアージ判定の実習》

トリアージする人がトリアージタグを持ち、円陣を組んでイスにすわる「けが人」の前に立つ。「けが人」は回答シートを持ち、トリアージする人の質問に答えた後、タグの色があっているかどうか判定する。



講師が判定の間違いが何故起こったのか、どうしたら正しい判定にできるのか解説する。



《「けが人」の脈を見る》搬送は優先か、遅れても良いか、不要かの判断をする。



その時あなたを救うのは？市民トリアージ

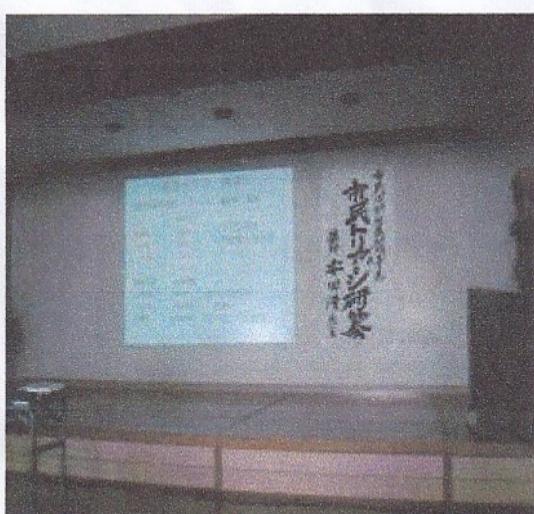
◎日時 令和5年11月26日（日）午前9時30分～正午

◎場所 焼津市立豊田公民館ホール

◎講師 静岡県災害対策本部DMA T調整本部長（整形外科医）安田清先生

◎主催 焼津災害支援ネットワーク（代表 伊藤弘泰）

※当日の参加者 20名

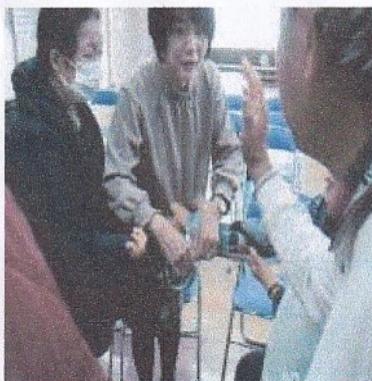


南海トラフ焼津 人口の15%が人的被害



南海トラフ津波が高さと到達時間を説明

《骨折応急手当の実習》



身边にあるもので応急処置を学ぶ。（前腕骨折の応急手当）

《身边にあるもので行う応急処置》

「血は貴方に汚く、貴方の手は傷に汚い！」

血に触らないようにビニール袋、ラップなどを使い、タオルなどで傷口を押さえる。

【ラップ療法】

- ①水で洗う
- ②水を拭き取る
- ③ラップを貼る
- ④ワセリンを塗ると痛みが楽になる
- ⑤テープでとめる
- ⑥毎日洗ってラップを貼り替える



【骨折の固定】

折れた骨の上と下の関節を動かないようにする。

- ①段ボールを副木にする。
- ②レジ袋を応用して、骨折した腕を吊る。
- ③養生テープなどを身体全体に巻いて固定する。

